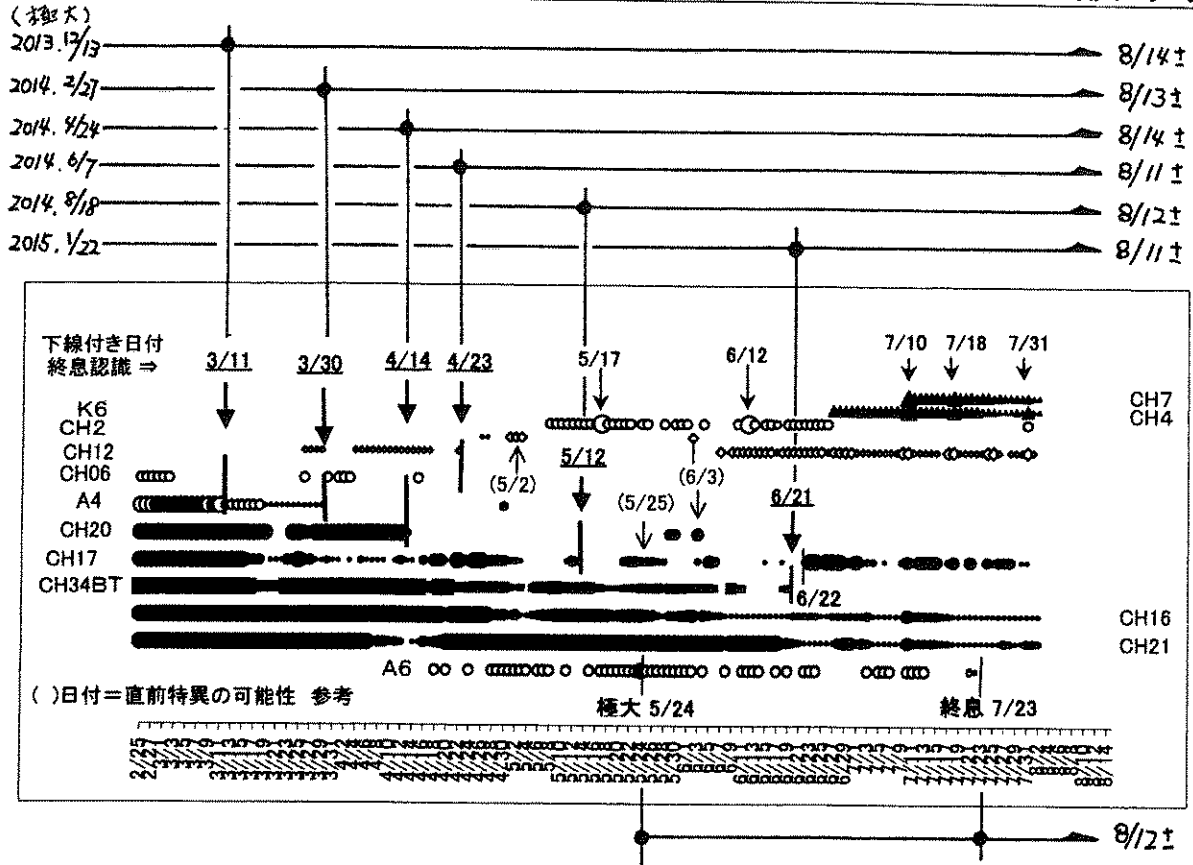


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 地殻大型地震の可能性前兆 現況報告  
新規前兆出現も新規極大も無し 前兆弱く継続 8/13±の可能性考え易い



No.1778長期継続特殊前兆群の続報、現況報告です。

昨日(8/1配信)の情報で、前兆の極大と終息の各関係認識に誤認があり、発生時期が修正となる可能性について報告致しました。昨日の情報では、8/13±2 時期の可能性が示唆されることも報告致しました。

本日 8/2夕刻現在、新たに出現した前兆も、極大認識される前兆変動も観測されておりません。むしろ、CH17特異もCH12特異も本日は観測されておらず、変動が弱くなった CH4, CH7の直接波近似変動と、CH16, CH21 の弱い特異状態のみです。

前兆が継続していること、しかし前兆レベルが減少していること、さらに新たな前兆も極大も観測されていないこと等から、昨日の情報で記したとおり、前兆の変化認識が間違っており上図の様な関係(昨日の情報にも掲載済)である可能性が示唆されることとなります。

直接波変動は7/10, 7/18, 7/31にやや強く出現していますが、

各極大なのか、通常地震前兆ではないため不明です。関連して、CH17, CH16, CH21, CH12 の各特異状態が変化しています。

直接波変動が出現する以前の前兆変化認識からは8/13±2 時期発生の可能性が示唆されています。Tmap: Tpp=3.9:1 経験則仮に前兆変動の最終極大が7/31とすれば、静穏期Tpp は3日となりますので、8/10±まで前兆が継続して終息する可能性が計算されます。

昨日の情報にも記しましたとおり、新たな前兆ステージに移行して、発生が相当先となる様な根拠前兆変動は観測されておりませんので、現在が最終段階の可能性が示唆されます。現在の認識が正しければ8/10以前発生の可能性否定できます。今後新たな前兆が出現しない限り、上図の様な関係が正しい場合は8/13±2 の可能性が示唆されます。前兆に変化が観測された場合、または解析で異なる発生時期が推定された場合は続報させて載せます。FAX・E-mailによる観測情報では日々報告継続予定。

※続報No.094 と合わせてお読み下さい。

※推定領域、推定規模、推定発生時刻等は変更ありません。以前の情報を参照下さい。

※HPの前号の続報No.094 は、3/1 15時過ぎにHP担当の方に送りましたが、担当の方の仕事の都合で更新アップが一日以上遅れた模様です。小生(串田)からもお詫び申し上げます。お許し下さい。